平成23年12月1日発行　第42巻 第12号　毎月1回1日発行　昭和46年1月27日第3種郵便物認可
ISSN 0385-2229

# 月刊 地域保健

12
2011

●特集

## 働きながら大学院で学ぶ

スキルアップを目指して

●FRONT RUNNER

かつらぎ町花園支所
弓庭喜美子さん

●PEOPLE

場づくり師
日置真世さん

FRONT RUNNER

# 真の気持ちを理解するには、相手の話をよく聞くこと。

## 住民の暮らしぶりを見るには、訪問することが一番重要です。

和歌山県かつらぎ町花園

弓庭喜美子さん

和歌山県伊都郡かつらぎ町役場花園支所花園地域振興課

取材・文　編集部　photographs：Sei Kamiyasu

## かつらぎ町花園

和歌山県伊都郡かつらぎ町花園は、平成17年に「花園村」が「かつらぎ町」に編入合併し、かつらぎ町の一つとなった。「花園支所」までは、ＪＲ和歌山線沿線にあるかつらぎ町役場から、車で約40分ほどである。空海が修行の場として開いたことで有名な高野山の麓にあり、千年前から高野山へお花やコウヤマキなどを献上していたことが、「花園」の名前に由来する。花園は人口が４１０人ほどで、高齢化率は実に50％超である。６つの集落から成り立ち、花園支所のある「花園梁瀬」や「花園北寺」「花園新子」のあたりには比較的若い人たちが住んでいるが、「花園池之窪」「花園中南」「花園久木」など有田川上流部へ行くと、独りまたは二人暮らしの高齢者世帯ばかりの集落になるという。

そして、この地域でたった一人の保健師として、花園の人たちの健康と生活を支えているのが弓庭喜美子さんだ。

## 初めての市町村保健師

弓庭さんは、かつらぎ町の隣町、有田川町で生まれ育った。緑が多く素朴な町で、花園とよく似たところだという。子どものころから、一生続けられて、社会の役に立てる職業に就きたいと思っていた。看護師をめざして和歌

かつらぎ町本庁から花園支所へ進む道（西高野街道）

かつらぎ町本庁近くの紀の川万葉の里公園。ここは万葉集にも詠われる歌枕の里。奈良から和歌山へ流れる紀ノ川と妹山、背山の美しい景色が眺めることができる

特集

# 働きながら大学院で学ぶ

## スキルアップを目指して

優れた保健師活動の存続が危ぶまれる中、技術の伝承は現任教育というかたちでなされようとしている。一方で、大学院で高度な知見を身に付けることが可能な時代となった。今月の特集では働きながら大学院で学ぶ保健師たちの声を紹介する。声を通じて保健師の目指すべきスキルや職業人として二足のわらじを履かざるを得ない現状について考えてみたい。


P18 私にとっての大学院進学の意味
◎石川貴美子（秦野市役所）

P24 学べる環境に感謝
◎古川馨子（牧之原市役所）

P30 理論と実践を結びつける大学院での学び
◎森永裕美子（倉敷市保健所）

P36 社会人として大学院で学ぶ意義
◎塚田月美（パナソニック電工電路株式会社）



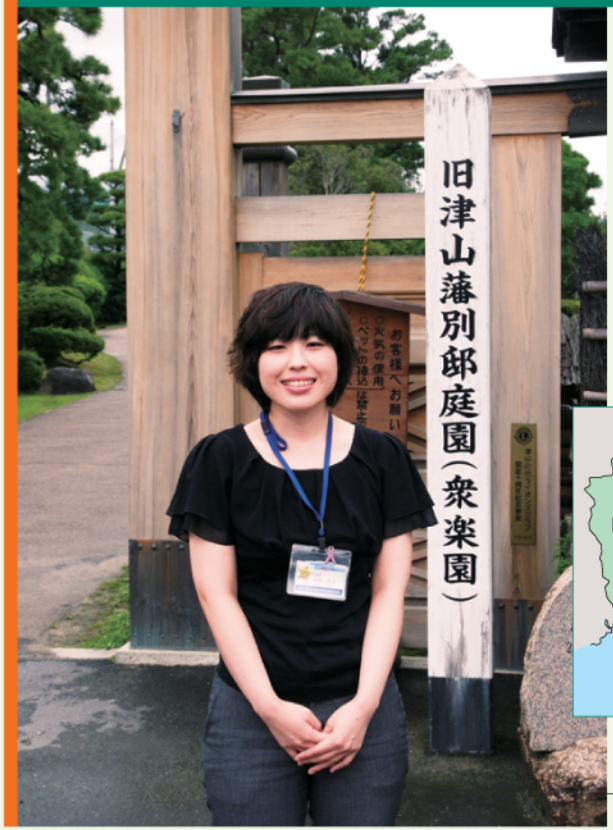

papercraft：hiro

ひよこ保健師 season 5

# 人をつなげ、調整することって、やりがいがあります！

## 保健師としてさまざまな業務にチャレンジしたい

兵田直子（ひょうだ なおこ）さん
●岡山県美作保健所保健課




◀旧津山藩別邸庭園の衆楽園

◎取材・文・写真
西内義雄
（医療・保健ジャーナリスト）



初めて会ったのに、そんな気がしない――。人懐っこい笑顔で迎えてくれた今月のひよこさんは、岡山県採用3年目の兵田直子さん（26）だ。

出身は香川県丸亀市。小さなころから書道と水泳に親しみ、小学校では生徒会の委員も任されていた。研究職の父、保育士の母の影響か、勉強もそれなりに好きだったようで、小4のときに何げなく「勉強が楽しい」と言ったところ、喜んだ両親が学習塾に入る手続きをし、そのままの流れで中学受験も経験。香川大学教育学部の付属校に進学した。

「しっかり勉強して社会に出てほしい。専門性や資格も身につけ、それを生かした職業に就いてほしいと両親、特に父は思っていたようです」

この中学の授業は工夫を凝らしたユニークなものが多かった。「なかでも一番記憶に残っているのが英語の授業です。国境なき医師団について学び感動しまして『私も医師になりたい。外国で活動してみたい！』と思いました」

また、部活では軟式テニスにも打ち込み、充実した3年間を送ることができた。

### 修学旅行の企画に燃えた

高校選びは医師になることを想定し、地元の進学校である丸亀高校に進学。今度は水泳部に所属した。

「水泳部はのんびりした活動でした。かわりに、私たちの高校では修学旅行の企画を生徒自身がすべて決める伝統があり、その委員としての活動にのめりこみました」

行き先は長野県と最初から決まっているので、限られた日程のなかで何をするかを、生徒の代表として企画・調整していくのだそうだ。これが思いのほか楽しく「すごく燃えました！」と言い切るほど、毎日が充実していた。おかげで当時の仲間とは今もよく会っているという。

一方、自分の将来についての考えは少しずつ変わってきた。

「高校になると、医者になりたいという気持ちよりも『自分が本当になりたいのは何なのか』で悩むことのほうが多かったように思います。少し大人に

▲津山市のごんご（かっぱ）祭にも積極的に参加